



|              |                                                                                       |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | Goodbye, Mr. Imoto                                                                    |
| Author(s)    | 岩根, 久                                                                                 |
| Citation     | Gallia. 2026, 65, p. 101-101                                                          |
| Version Type | VoR                                                                                   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/104480">https://hdl.handle.net/11094/104480</a> |
| rights       |                                                                                       |
| Note         |                                                                                       |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## Goodbye, Mr. Imoto

岩根 久

まず、仏文の雑誌なのに何故英語のタイトルなのかと訝しく思う方もおられるかもしれないので、言い訳をさせていただく。井元さんは、私の退職に際して「岩根先生さようなら」(GALLIA, LIX, 2020, pp.132-134)という素晴らしいエッセイを寄せてくださった。タイトルから想起されるのは邦題『チップス先生さようなら』で知られる小説・映画である。そのまま日本語でお返しするのも芸がないように思われたので、原題の方をもじらせていただいた。

井元さんとの思い出は本当に数々あるが、ここでは一つに絞ってお伝えしたい。井元さんも書いてくださっていた2006年に始めた「活用早打ち大会」の思い出である。二つのクラスの学生を一堂に集め、直説法現在形の活用を一分間でどれだけ正確に打ち込めるかを競った。学生たちの熱気もさることながら、実は教員の私たち二人の方がずっと本気だったように思う。大会後、勝敗が決まると、それぞれ自室で写真を撮り、私の授業のホームページに掲載した。勝ったクラスの井元さんは満面の笑顔でVサイン、敗れた私は肩を落としてがっくりだったが、そのとき既に、次の大会への策を練りながら心はウキウキしていた。あのときの写真を見ると、教育を遊び心で包みながら真剣に取り組んだ思い出がよみがえる。

もし今も一緒に授業をしていたなら、私たちはきっと ChatGPT のような AI ツールをどう活用できるか、夢中になって議論していたに違いない。文法練習や作文添削に AI を取り入れ、学生の創造力を刺激するような新しい授業を考えながら、「AI 活用大会」などという企画を、また二人で立ち上げていたことだろう。

井元さんのあの全き笑顔が大学から消えていくのは本当に寂しい限りだ。井元さん、大学とは言わずこれからも笑顔でこの世界を明るくして下さい。

(大阪大学名誉教授・大阪大学 D3 センター招聘教員)

喜ぶ井元先生

